
『朝が来ない！』

しのぶ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『朝が来ない!』

【Nコード】

N3263Q

【作者名】

しのぶ

【あらすじ】

毎日太陽は昇り、新しい朝がやってくる・・・それは当たり前前の事だと思ってた・・・なのに、今朝は違っていたの・・・私が眠っている間に世界に何が起こったって言うの?!

「うういゝ・・・ただいまあゝ」

「あ！ おかえりなさい、お姉ちゃん・・・って、随分疲れてるわね」

「うん・・・今日は土曜日で授業が無いからって澁ちゃんが・・・」

【よし！ 朝からミツチリ練習をするぞ！ 休みの日の音楽室使用許可はすでに和から取ってあるからな！】

【ええゝ！ せっかくの週末なのにいゝ！】

【週末で時間があるからこそ練習するんじゃないか！】

「って張り切っちゃってさあ・・・」

「うふふ、澁さんらしいわね」

「あずにゃんもここぞとばかりにスパルタになって大変だったよ」

「それじゃ後でマッサージしてあげるから、先にお風呂に入ってきてね」

「は〜い」

憂はやっぱりいい子だよねえ〜。

お嫁さんにしたい女の子大会があったら絶対に優勝しちゃうよ。

お風呂上りのマッサージ気持ちいい〜。

ご飯は美味しいし、食後のデザートも最高だし。

余は満足じゃ〜〜〜！ つて感じだね。

時計の針は10時・・・明日は日曜日だしまだまだ起きていたいけど瞼が重くなって来ちゃった・・・

「う〜い〜・・・睡魔が団体で攻めてきたからもつ寝るね〜」

「おやすみなさいお姉ちゃん、明日は日曜日だから起こさなくていいんでしょ?」

「うん、特に用事もないからいいよ」

「それじゃ、おやすみなさい」

「おやすみ〜・・・」

私はベッドに横たわるとすぐに深い眠りに落ちました。

んゝゝゝ。まだ暗いから日は昇ってないんだよね。今、何時
なんだろ？

枕元に置いてある時計を見ると時刻は5時10分。

いつも学校に行く時よりも2時間くらい早く起きちゃった。..
けど今日は日曜日だし、まだ寝ててもいいよね。..2度寝出来
るって贅沢。..

ではでは、おやすみなさい。..ムニャムニャ。..

ふあゝゝゝ。..よく寝たゝゝゝ。..

時計を見ると11時、お昼まで寝ちゃったんだ。
私はお布団の中で伸びをした後、ゆっくりと体を起こした。

寝ぼけた頭が少しずつ覚醒すると共に、私は身の回りに起きてる違和感に気が付きました。

あれ？ どうしてこんなに暗いの？ 雨でも振ってるのかな？
せつかくの日曜日なのに雨なんてヤダなあ。

そう思ってカーテンを開けたけど、雨の音なんて聞こえない・・・
え？ これっていったい・・・

私は背筋に冷たい物が走るのを感じて1階へと駆け下りました。

台所にはラップが掛けられた目玉焼きとサラダが・・・

これは憂が用意してくれた私の朝ご飯・・・やっぱり今日は日曜
日で間違いないよね・・・

落ち着いて考えなきゃ・・・

昨日私は10時に寝たよね・・・そして5時過ぎに一度目が覚めて・・・お茶を飲んで、お手洗いを済ませて・・・その時には朝ご飯の用意はされてなかった・・・うん、絶対に無かった・・・それでもう一度寝て11時に目が覚めた・・・

よし、記憶はシッカリしてる・・・これは夢じゃない。

時計を見ると時刻は12時・・・心なしかさつきより闇が深くな
って来てる様な気が・・・

いくら日曜日だからって静かすぎるよね、いつもなら車が通り過ぎたり、遊びに行く親子連れの声が聞こえたりするのに・・・今はそんな音が何も聞こえない・・・街全体が静寂に包まれているみたい。

『地球規模の異変』 『世界の壊滅』 『人類の滅亡』

何かの本で読んだ嫌な言葉が次々と頭の中に浮かび上がって不安な心は今にも崩れ落ちそうだった。

朝が来ないって事は太陽が消えちゃったの？ 街の人はどこに？
憂は・・・

そうだ！ 大切な事を忘れてた！

憂は！ 憂は無事なの？！ もし憂の身に何かあったら・・・

私は慌てて2階へ駆け上がり憂の部屋に飛び込んだ！

視線を送るその先に憂は・・・居た・・・

安堵感が一気に押し寄せ、私は憂を抱き締めて泣いた。

「よかった・・・憂、無事だったんだね・・・本当に良かった」

「へ？ お姉ちゃん何言ってるの？」

「街が・・・ううん、もしかしたら地球が壊れちゃったかも知れないんだよ・・・」

「え？・・・」

「でも憂が無事で本当に良かった、世界がどんな事になっても私が絶対に憂を守るからね！」

「お姉ちゃん・・・」

私は憂を力強く抱き締めました。
憂の腕にも力が入ったように思える・・・やっぱり怖いのを我慢してたんだね。

「お姉ちゃん、怖い夢でも見たの？ 大丈夫よ私が付いててあげるからね」

恐怖のあまり憂が混乱してる・・・そう思った私は大きな声で憂に話しかけました。

「な！ 何を言ってるのよ！ 憂、状況が分かってる？ 外を見て！ 真つ暗で誰も居ない・・・もしかしたら太陽が消滅しちゃったかもしれないんだよ！ 私達以外の人が居なくなっちゃかもしれないんだよ！」

「もう、お姉ちゃんったらあ・・・今、深夜の0時だよ？ 暗いの当たり前じゃない」

「え？・・・」

「でも寝ぼけてるお姉ちゃんも可愛い」

「え？ え？？」

「こんなに涙流して、よっぼど怖い夢だったのね」

「憂……今……何時って？」

「え？ だから深夜の0時って」

「深夜の0時って事は……もう月曜日？」

「うん」

「私……26時間も寝てたって事？」

「うん」

「……」

「……？」

「……わぁ〜！ 日曜日まるまる損したぁ〜！！」

いかにあつ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3263q/>

『朝が来ない!』

2011年1月26日00時26分発行